

平成二十二年四月十四日提出
質問第三八四号

外務省ODA評価有識者会議の座長が理事を務める財団法人がODA事業を受注していた件に
関する質問主意書

提出者 鈴木宗男

外務省ODA評価有識者会議の座長が理事を務める財団法人がODA事業を受注していた件に

関する質問主意書

本年四月十三日の毎日新聞報道によると、同年三月末で廃止となった外務省のODA評価有識者会議（以下、「有識者会議」という。）の座長であった牟田博光氏が理事を務める財団法人「国際開発センター」が、二〇〇五年度から二〇〇九年度にかけて、合計十一件、総額約二億三千万円分のODA調査事業を受注していたことが明らかになったとのことである。右を踏まえ、質問する。

一 「有識者会議」の活動趣旨、設立された経緯等、同会議の詳細について説明されたい。

二 牟田氏はいつから「有識者会議」の座長を務めていたか。

三 外務省として、国際開発センターが二〇〇五年度から二〇〇九年度にかけてODA事業を受注していたことをいつ知ったのか。

四 報道によると外務省は、同一人物がODAを評価する側と実施する側の双方にいたことで疑念を持たれたとして、「有識者会議」を本年三月末で廃止したとのことであるが、右は、国際開発センターが二〇〇五年度から二〇〇九年度にかけてODA事業を受注したことが、同センターの理事であった牟田氏が「有

識者会議」の座長を務めていたことと、実際に何らかの関連性があつたからと理解して良いか。

五 新聞報道によると、牟田氏は国際協力機構の外部有識者事業評価委員会委員長を務めているとのことである。また、自身が副会長を務める特定非営利法人「日本評価学会」が、二〇〇五年度から二〇〇九年度にかけて、同機構等が発注するODA評価事業計十件を随意契約等で受注していたとのことである。右も、

牟田氏が発注する側と受注する側の双方の立場にあつたことが関係しているのか。

六 四と五の事例は、牟田氏が理事、副会長を務める国際開発センターと日本評価学会に対して、外務省により何らかの便宜が図られたと受け止められるのではないかと考えるが、同省の見解如何。

七 今回明らかになったことを踏まえ、外務省として、ODAの透明性向上、ODAに対する国民の信頼回復に向け、今後どのような対応を取る考えでいるのか明らかにされたい。

右質問する。